

# 日仏交流 150 周年記念プロジェクト「ラ・セーヌ」報告

日大生産工 山家 哲雄

## 1. はじめに

今年、日本とフランス共和国の外交関係が樹立されて 150 周年を迎える記念の年であり、日仏両国において、芸術・文化などの多くの記念行事が催されている。

照明デザイン分野においても、日仏交流 150 周年を記念して、今秋、フランス共和国の首都パリで、光の一大イベントを催した。

本稿は、著者が参画した日仏交流 150 周年記念プロジェクト「ラ・セーヌ：la Seine」の概要を報告するものである。

## 2. 日仏交流 150 周年とは

近代の日本とフランスの交流は、1858 年 10 月 9 日（旧暦 9 月 3 日）に署名された日仏修好通商条約に始まる。

この条約自体は、当時の他の欧米列強との条約同様、日本に関税自主権が認められず、日本国内でのフランスの治外法権が認められていた等の不平等な内容を含んでいた。（後に、長い困難な交渉の結果、これらの点は改正された。）

しかし、この条約の締結により、日仏間の外交関係が設立され、フランスが日本の近代化努力に協力する契機となった。

明治維新に始まる日本の近代化のため、日本はフランス人がもたらす当時最先端の技術や知識を必要とし、フランスは日本の近代化のモデルの一つとして日本に多くの影響を与えた。

逆に、フランスでは、浮世絵・絵画・陶磁器などの日本美術がちょうど変革期を迎えていたフランスの工芸界、美術界に大きな影響を与え、印象派やアール・ヌーボーの基礎になった。

このように、日本とフランスの関係は、近代化の夜明けにあった日本へのフランスからの技術移転に始まり、その後、芸術・文化における交流が中心となった。

今日では、それにとどまらず、政治、経済、スポーツ、モード（mode）、グルメ（食文化）など、あらゆる分野において深い関係が築かれ、お互いに影響を与え合っている。

## 3. ラ・セーヌ (la Seine)

日仏交流 150 周年記念プロジェクトの名称は、「ラ・セーヌ - 日本の光のメッセージ ~ 25 橋と岸辺を彩る和のこころ ~」と題された。

日本とフランスの交流 150 周年を記念して、パリ市内の主要な 25 橋にカラーライト投光を行うと共に、併せて、日本が世界に誇る美術作品（書画・絵画等）を大型映像にてパリ・セーヌ川の岸壁に照射することによって、フランスそして世界に向かって、日本の心を光のメッセージで発信した。（[図 1](#) 参照）

セーヌ川に特別船を仕立て、記念事業に関する航路上の主な建物を和の美と和の色で彩り、更に特別なスポットライトも絡めることで、都市空間的な広がりをもつ光のイベントである。

プログラムの概要は、

**期日**：2008 年 9 月 25 日（木）～ 27 日（土）

**時間**：・ **20 時～21 時**

映像プロジェクトン パート 1

・ **21 時～22 時 30 分**

25 橋ライトアップ

スポットライト&秋景色ライトアップ

・ **22 時 30 分～23 時 30 分**

映像プロジェクトン パート 2

**場所**：・ **25 橋ライトアップ**

パリ市セーヌ川中心部（サン・ルイ島から自由の女神間）に掛かる橋

・ **岸辺映像プロジェクトン**

シテ島ノートルダム南東側岸辺

・ **スポットライト・ムーブメント**

150 周年記念事業に縁のある美術館や、主な建造物、橋の部分など

・ **秋景色ライトアップ**

自由の女神のある「白鳥の小径」に日本の紅葉を光で再現

である。

## 4. おわりに

以上の様に、パリ・セーヌ川の夜景を和の美で彩る日仏交流 150 周年記念プロジェクト「ラ・セーヌ - 日本の光のメッセージ ~ 25 橋と岸辺を彩る和のこころ ~」が 9 月下旬の 3 日間にわたって行われ、パリッ子を魅了した。今回の照明プロジェクトは、画期的な光のインスタレーションであり、これまで世界的に見ても前例がなく、新しいクリエイションとしての話題を提供したと考える。

最後に、日仏交流 150 周年を記念した本プロジェクトでは、パリ当局もセーヌ川に架かる橋梁のライトアップの一部を消すなどの協力して頂いたことを付記し、深く感謝の意を表する。



図1 (日仏交流 150 周年記念プロジェクト) ラ・セーヌ - 日本の光のメッセージ ~25 橋と岸辺を彩る和のこころ~